



古長谷 鷹念 (Takane Konagaya) 委員

スカイランドベンチャーズ株式会社

麻布山幼稚園、港区立東町小学校卒業。港区立高松中学校では生徒会副会長を務める。中学在学中より IT 企業でインターンを開始し、中学 3 年次には Shibuya QWS チャレンジに採択。以後 3 年間にわたり Shibuya QWS に所属。港区青少年対策六本木地区委員会では、港区キャンプをはじめとする地域行事にスタッフとして参加。N 高等学校を経て、エンジニア養成機関 42Tokyo に入学。2025 年、港区「二十歳の集い」実行委員長を務める。現在は、ベンチャーキャピタルにてアソシエイトとして活動中。

若者×町会から考える地域アップデート

MINATOビジョン・シンポジウム 2025.7.17

若者
古長谷 鷹念

自己紹介

- ・ 麻布十番育ち（幼小中 港区）
- ・ 区長と区政を語る会／生徒会副会長
- ・ 2025「二十歳の集い」実行委員長
- ・ 現在 VCアソシエイト／地域行事スタッフ

変化を歓迎し “地域を磨く当事者”

現状 若者と町会のギャップ

- 221町会・自治会 補助金総額 7,364万円
※港区調べ
- 昼夜間人口比 373% 若者は“いる”が地域に映らない
※令和2年国勢調査結果
- 会費・活動内容・窓口が町会ごとに曖昧



関わりたい若者はいるが、最初の一步が見えない

3

将来の課題 動かない仕組みの負の循環

- 加入窓口が不明瞭 → 未加入の若者・転入者が増加
- 担い手高齢化・行事縮小・魅力度低下
- 会費収入が減り “入っても得がない” 認識が拡大
- このままでは地域継承が断絶しかねない

4

2040年に向けて

- ・ 港区総人口は微増だが
20～39歳は流入超過で緩やかに増加
↓
- ・ つまり「これから関わる世代」が主役へ
- ・ 今、若者が映る仕組みを描けるかが分岐点

5

問い続ける港区へ

- ・ 制度もつながりも“完成形”でなく“問い”
- ・ 年1回 町会・行政・若者が制度をアップデート
- ・ 港区を「変化を恐れず、進化し続けるまちに」

未来を見据え、共に成長し続ける地域共生の礎に

6

課題：町会・自治会等が直面する担い手の高齢化と参加者の減少

原因：若者に「情報の壁」「心理の壁」「価値の壁」

提言：港区コミュニティアクション&共創ハブ（港区公式まちづくりインカレサークル）の創設

港区コミュニティアクション&共創ハブ （港区公式まちづくりインカレサークル）の創設

新陳代謝と実効性の担保。
若者に対しての広報宣伝・新規人材確保・プロジェクト等への若者人材の創出。
OB・OGとの連携。

港区在住(転出者含む)・港区在勤・港区との協定締結校在籍、いずれかを満たす18-24歳までの若者

継続性の担保のための施策

専門コーディネーター

町会・自治会等によるプロジェクトの組成・管理
国の「地域活性化起業者制度」や「地域おこし協力隊制度」を積極的に活用し、プロジェクトマネジメント等の専門スキルを持つ専任コーディネーターを配置

多角的な資金調達

港区予算からの拠出に加え、国の交付金（地方大学・地域産業創生交付金など）、企業協賛、民間財団からの寄付、町会からの拠出、そしてふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディング（GCF）など、多様な資金源を確保

40歳以下で構成する

港区次世代コミュニティ円卓会議の設置

港区コミュニティアクション&共創ハブを含む各戦略の進捗管理、セクター間の連携促進、そして社会の変化に応じた制度の継続的なアップデートを実施

公募で選ばれたU24

行政代表

町会代表

地元企業代表

NPO代表

青少年委員代表

PTA代表

若者への明確な価値提供

同年代との交流

他の学校・社会人を問わず港区に関わる同年代との繋がりを提供

学業上の単位認定

参加大学と連携し、プロジェクトを授業として設計し、単位取得を可能

キャリア上のクレジット（ガクチカ：就活用アピールポイントの提供）

課題解決能力、プロジェクトマネジメント能力、世代を超えたコミュニケーション能力など、就職活動でアピールできる実践的な経験を提供

経済的インセンティブの提供

責任の重い役割には有償の活動費や謝礼を支給

公式認定証の発行

港区と所属学校が連名で「港区コミュニティ共創クリエーター認定証」を授与

若者を惹きつける「参加のハシゴ」戦略

港区地域デザイン・インターンシップ（有償）

地域活動をキャリア形成やスキルアップに直結する「実践的な学びの場」として再構築

ギグ・ボランティア

「祭り当日の2時間だけ写真撮影」など、超短期・単発で気軽に参加できる機会を提供

テーマ別プロジェクト

DX支援、イベント革新、地域資源マッピング、社会的支援、防災対策など、若者の“好き”や“得意”を活かせるプロジェクトを創出

町会・自治会等による
若者参加プロジェクトの提供

